

Site Studio Publishing Utility インストレーション・ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.0)

**部品番号 : B51316-01**

2008 年 10 月

Site Studio Publishing Utility インストール・ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.0)

部品番号 : B51316-01

原本名 : Site Studio Publishing Utility Installation Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.0)

原本協力者 : Will Harris, Sean Cearley

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるとしてプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありま。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

---

---

# 目次

## 1 はじめに

インストールの要件 .....	1-2
オペレーティング・システム .....	1-2
データベース .....	1-2
Java 仮想マシン (JVM) .....	1-2
デフォルトのポート割当て .....	1-3
ファイアウォールの注意事項 .....	1-3
Windows の FTP サーバー構成 .....	1-3
以前のバージョンからのアップグレード .....	1-4
ドキュメントおよびオンライン・ヘルプ .....	1-4
このガイドで使用される表記規則 .....	1-4

## 2 インストールの手順

Publishing Utility のインストール .....	2-2
データベースの設定 .....	2-2
Windows サービスとしてのインストール .....	2-5
Subscription Client のインストール .....	2-6
Publishing Utility の構成 .....	2-6
Subscription Client の構成 .....	2-7
Publishing Utility および Subscription Client のアンインストール .....	2-8

## 3 Subscription Client の管理

Subscription Client の管理インタフェース .....	3-2
Subscription Client の一般設定 .....	3-2
Subscription Client 構成ファイル .....	3-3
siclone 要素 .....	3-3
options 要素 .....	3-4
log 要素 .....	3-5
proxy 要素 .....	3-7
ssl 要素 .....	3-7
extensions 要素 .....	3-8
extension 要素 .....	3-8

## A サード・パーティ・ライセンス

概要 .....	A-1
Apache Software License .....	A-2
W3C® Software Notice and License .....	A-2
Zlib License .....	A-3
General BSD License .....	A-3
General MIT License .....	A-4
Unicode License .....	A-4
その他の帰属 .....	A-5

## 索引

---

## はじめに

このインストール・ガイドでは、Site Studio の Web サイトを公開するために使用する Site Studio Publishing Utility のインストールおよび構成方法について説明します。Site Studio を使用すると、Content Server で Web サイトを構築および管理できます。Content Server インスタンスを実行していない Web サーバーに対して、Content Server から Web サイトを公開する場合があります。このプロセスは公開と呼ばれます。

Publishing Utility では、Site Studio の Web サイトを、Content Server 環境からただの Web 環境（つまり、Microsoft IIS、Apache などを実行している）に対して公開できます。

Publishing Utility は Web サイト内のすべてのリンクを横断し（リンクされたすべてのページを閲覧）、各ページおよびページのすべてのリソース（画像、フラッシュ・ムービーなど）のコピーをダウンロードして、動的サイトの静的スナップショットを作成します。Web サイト全体（問合せ、レイアウト・ページ、フラグメント、コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントを含む）が、新しいサーバーにコピーされて公開されます。

**注意：**Site Studio リリース 7.5 がインストールされている必要があります。Site Studio の以前のリリースを使用している場合、Publishing Utility をインストールする前にリリース 7.5 にアップグレードしてください。

この項の内容は次のとおりです。

- [インストールの要件](#)
- [デフォルトのポート割当て](#)
- [ファイアウォールの注意事項](#)
- [Windows の FTP サーバー構成](#)
- [以前のバージョンからのアップグレード](#)
- [ドキュメントおよびオンライン・ヘルプ](#)

## インストールの要件

Site Studio Publishing Utility をインストールする前に、オペレーティング・システム、データベースおよび JVM の要件を満たしている必要があります。

### オペレーティング・システム

Site Studio Publishing Utility は、次のオペレーティング・システムでサポートされています。

- Windows: 2000、XP および 2003
- UNIX ベース : Solaris および Linux

### データベース

Site Studio Publishing Utility は、次のいずれかのデータベースを必要としています。

- Service Pack 2 (SP2) 以降の Microsoft SQL Server 2000
- IBM DB2 8.0.1 以降
- Oracle9i Database

### Java 仮想マシン (JVM)

Site Studio Publishing Utility では、JDK/SDK バージョン 1.4.x が使用するマシンにインストールされている必要があります。JDK/SDK 1.4.2 (たとえば、j2sdk1.4.2) を使用することをお勧めします。サポートされているバージョンが使用するマシンにインストールされていない場合、Java 仮想マシンを次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://java.sun.com/>

JDK/SDK バージョン 1.4.x を使用するオペレーティング・システムにダウンロードし、インストールの指示に従ってインストールしてください。

**重要:** Microsoft Jview または JRE を使用しないでください。

#### 最大ヒープ・サイズの設定

最大ヒープ・サイズは、Publishing Utility を実行する Java 仮想マシン (JVM) に割り当てられる物理メモリの最大量です。Publishing Utility のデフォルト構成は 128MB です。多くの本番 Site Studio 実装では、これは低すぎる設定です。クローलした Site Studio の Web サイト内でアイテムの総数が増加すると、クロール中に Publishing Utility で使用されるメモリーの量も増加します。メモリー設定が低い場合、クロールの時間が遅くなり、メモリー不足のメッセージがログ・ファイルで発生することになります。

本番実装では、デフォルトを 256MB に変更することをお勧めします。最大ヒープ・サイズ設定の変更は、次の 2 箇所で行います。

- **cns.wrapper.conf** ファイル: 変数 wrapper.java.maxmemory の値を変更します。このファイルは、Publishing Utility の install root /conf/ ディレクトリにあります。
- **cns.sqlserver.bat** (データベースによっては **cns.oracle.sh**) : コマンドライン引数の値を -mx128m から -mx256m に変更します。このファイルは、Publishing Utility の install root ディレクトリにあります。

Subscription Client の最大ヒープ・サイズも 128MB に変更することをお勧めします。デフォルトは、64MB です。Subscription Client の最大ヒープ・サイズ設定の変更は、次の 2 箇所で行います。

- **sub.wrapper.conf**: 変数 wrapper.java.maxmemory の値を変更します。このファイルは、Subscription Client の install root /conf/ directory ディレクトリにあります。
- **launch-program.bat** (または **launch-program.sh**) : コマンドライン引数の値を -mx64m から -mx128m に変更します。このファイルは、Subscription Client の install root ディレクトリにあります。

次に例を示します。

```
C:/j2sdk1.4.2_03/bin/java -mx128m -Djava.security.auth.login.config=
"./conf/cns_client_jaas.config" bootstrap.SubscriberStart $
```

## デフォルトのポート割当て

Publishing Utility で使用されるデフォルトのポート番号は次のとおりです。

ポート番号	使用目的	コンポーネント
8885	SSL の送信サーバー	Subscription Client
8886	送信サーバー	Subscription Client
8887	管理サーバー	Subscription Client
8880	マスター・サーバー	Publishing Utility
8889	管理サーバー (Publishing Server URL のポート番号)	Publishing Utility
8890	ICE サーバー	Publishing Utility
8891	ファイル・サーバー	Publishing Utility
8893	SSL の ICE サーバー	Publishing Utility
8894	SSL のファイル・サーバー	Publishing Utility

## ファイアウォールの注意事項

通常の配布操作では、Publishing Utility 管理サーバーはインターネットを介さずに内部でのみ通信します。したがって、Publishing Utility および Subscription Client の両方がファイアウォールの背後にある場合、ポートはクローズしたままです。

**重要:** Publishing Utility および Subscription Client がファイアウォールで隔てられている場合、ファイアウォールを通してポート 8890 とポート 8891 をオープンし、Subscription Client が Publishing Utility と通信できるようにします。

## Windows の FTP サーバー構成

Content Server は、Windows の FTP サーバーを UNIX ディレクトリ一覧のスタイルでのみサポートします。MS-DOS ディレクトリ・スタイルではサポートしていません。

1. 「IIS マネージャ」を開き、「FTP サイト」を選択します。
2. メイン・メニューで「アクション」→「プロパティ」をクリックします。
3. 「ホーム・ディレクトリ」タブを選択します。
4. 「ディレクトリの表示スタイル」で「UNIX」オプションを有効化します。
5. 「FTP サイト・ディレクトリ」で「書き込み」オプションを有効化します。
6. 「OK」をクリックして関連する子ノードを選択します。「デフォルト FTP サイト」は書き込み可能に設定されている必要があります。
7. 「OK」をクリックして FTP サーバーを再起動します。

## 以前のバージョンからのアップグレード

Publishing Utility リリース 7.5 の以前は、Site Studio の Web サイトから静的 Web サイトへの Web ページの公開は、「Site Studio Administration」から統合されたインターフェースを使用して実行していました。Publishing Utility では、独自の管理インターフェースが提供されます。新しいインターフェースにより、管理者が公開する Web サイト、公開の宛先および更新スケジュールを迅速に定義できます。

### リリース 7.5 への更新

1. Content Server で、Site Studio Publishing Utility コンポーネントを無効化します。
2. Site Studio リリース 7.5 がインストールされている必要があります。Site Studio の以前のリリースを使用している場合、Publishing Utility をインストールする前にリリース 7.5 にアップグレードしてください。
3. Publishing Utility のインストール手順を実行します。

Publishing Utility リリース 7.5 を、Publishing Utility リリース 7.2 と同一のマシンにインストールする場合、インストールの実行の際に「Update a Site Studio Publishing Utility」を選択します（詳細は 2-2 ページの「Publishing Utility のインストール」を参照してください）。ただし、使用するデータベース表を更新する必要があります。

## ドキュメントおよびオンライン・ヘルプ

Site Studio Publishing Utility のドキュメントは、インストール・ディレクトリから入手できます。

ドキュメント	形式	入手方法
リリース・ノート	PDF	DVD または配布 ZIP ファイル
インストレーション・ガイド	PDF	DVD または配布 ZIP ファイル
管理ガイド	PDF	DVD または配布 ZIP ファイル

## このガイドで使用される表記規則

インストレーション・ガイドでは次の表記規則を使用します。

規則	定義
太字	デザイナーまたはコントリビュータのインターフェースで選択し、特定のタスクを実行するボタンまたはメニューなどのアイテムを示します。 「OK」をクリックして削除を確認します。
→	メニューの選択を示します。たとえば、「File」→「Open」をクリックします。」は、「File」メニューをクリックしてから「Open」をクリックするという意味です。
コード	デザイナーで実際に使用されるコードおよびレイアウト・ページの「Source」ビューで入力可能なコードを示します。



---

---

## インストールの手順

この項では、Site Studio Publishing Utility および Subscription Client のインストールおよび構成方法について説明します。Publishing Utility はシステムのサーバー・サイドで、スクリプトまたは FTP サーバーはシステムのクライアント・サイドとして処理を実行します。一般に、Subscription Client は Web サーバーをホストするすべてのマシン上にインストールします (FTP サーバーの使用を選択しない場合)。

**注意：**Site Studio リリース 7.5 がインストールされている必要があります。Site Studio の以前のリリースを使用している場合、Publishing Utility をインストールする前にリリース 7.5 にアップグレードしてください。

この項の内容は次のとおりです。

- Publishing Utility のインストール
- Subscription Client のインストール
- Publishing Utility の構成
- Subscription Client の構成
- Publishing Utility および Subscription Client のアンインストール

## Publishing Utility のインストール

Publishing Utility は、Content Server と同一のマシンにインストールできます。ただし、Publishing Utility を専用サーバーにインストールすることをお勧めします。

### Publishing Utility のインストール

1. DVD を挿入または配布 ZIP ファイルを解凍します。
2. SiteStudioPublishingUtility¥¥win32¥ ディレクトリに移動し、**Setup.exe** を起動します (UNIX の場合、/unix/install.sh 実行可能ファイルを実行します)。
3. InstallShield Wizard が表示されたら、「Next」をクリックします。
4. 「Yes」をクリックして、ライセンス契約に同意します。
5. 新規にインストールする場合、「Install a new Site Studio Publishing Utility」オプションを選択します (「Update」および「Remove」オプションの選択も可能です)。
6. 「Next」をクリックします。
7. デフォルトのディレクトリを受け入れる (推奨) か、宛先フォルダを入力します。
8. 「Next」をクリックします。
9. 使用する Java 仮想マシン (たとえば、j2sdk1.4.2) のパスを入力します。詳細は、1-2 ページの「Java 仮想マシン (JVM)」を参照してください。
10. 「Next」をクリックします。
11. ファイルをコピーする前に、設定を確認します。
12. 「Next」をクリックします。
13. 「Finish」をクリックします。

## データベースの設定

この項では、Publishing Utility をサポートされているデータベース管理システムに対して構成する方法を説明します。

### Oracle ドライバの構成

Connection Server で使用するための Oracle データベースを作成していない場合、最初にデータベースを作成し、SQL スクリプト `syn_server.oracle8.sql` を実行して Oracle 表を作成します。スクリプトは、Connection Server¥¥sql ディレクトリにあります。SQL スクリプトの実行に関する詳細は、Oracle ドキュメントを参照してください。

**注意:** Connection Server に関連付けられたログインによって所有されるデータベース表は、専用表領域内に作成する必要があります。

データベースが正しく設定されないと、次のエラー・メッセージが戻ります。

```
database driver could not be loaded
failed to open the database
```

### Microsoft SQL Server のドライバの構成

SQL Server で、データベースを作成します。新規データベースの場合、SQL Query Analyzer を使用し、Connection Server の ¥¥sql¥ サブディレクトリにある `syn_server.mssql2000.sql` 作成スクリプトをロードして実行します。このスクリプトにより、データベース内に表が作成されます。SQL スクリプトの実行に関する詳細は、Microsoft SQL Server のドキュメントを参照してください。

データベースが正しく設定されないと、次のエラー・メッセージが戻ります。

```
database driver could not be loaded
failed to open the database
```

## DB2 ドライバの構成

DB2 ドライバは、Connection Server CD または配布 ZIP ファイルに含まれていません。syn\_server.db2.sql を CNS\_HOME/sql/ から使用する DB2 ホストのディレクトリにコピーする必要があります。次に、db2jcc.jar または db2jcc.zip ファイルを DB2 インストール・ディレクトリ sqllib/java/ から CNS\_HOME/lib/ ディレクトリにコピーします。最後に、データベースおよび表を DB2 内に（「DB2 Command」を使用して）作成します。

次に例を示します。

```
db2 CREATE DB <db anme> ALIAS <db alias>
db2 CONNECT TO <db alias> USER <user> USING <password>
db2 -tvf syn_server.db2.sql
```

## Publishing Utility の使用するデータベースへの接続

この項では、Publishing Utility インストールを正しいデータベースに対して構成する方法を説明します。

### Oracle への接続

1. テキストのみエディタを使用して、使用する Publishing Utility がインストールされているディレクトリにある `cns.oracle.config` ファイルを開きます。これは、Oracle 用の構成ファイルのサンプルです（次を参照）。

---

```
<database type="oracle">
<driver jdbcURL="jdbc:oracle:thin:@SERVER:1521:NAME"
driver="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"/>
<user username="USER" password="PASSWORD"/>
</database>
```

---

2. SERVER を、使用する Oracle サーバーの名前に置き換えます（たとえば、"10.10.1.248"、"server7" など）。
3. デフォルト・ポートは 1521 です。必要に応じて、これを変更します。
4. NAME を、サーバー上のデータベースに命名した名前に置き換えます（たとえば、"sspu" など）。
5. USER および PASSWORD を、データベースへのアクセスに使用するユーザー名およびパスワードに置き換えます。

次に例を示します。

---

```
<database type="oracle">
<driver jdbcURL="jdbc:oracle:thin:@server7:1521:sspu"
driver="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"/>
<user username="administrator" password="administrator"/>
</database>
```

---

6. `cns.oracle.bat` ファイルを実行して、サーバーを起動します。

**注意：**デフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードは、`administrator / administrator` です。

**DB2 への接続**

1. テキストのみエディタを使用して、使用する Publishing Utility がインストールされているディレクトリにある `cns.db2.config` ファイルを開きます。これは、DB2 用の構成ファイルのサンプルです（次を参照）。

---

```
<database type="db2">
<driver jdbcURL="jdbc:db2://SERVER:50000/NAME"
driver="com.ibm.db2.jcc.DB2Driver"/>
<user username="USER" password="PASSWORD"/>
</database>
```

---

2. SERVER を、使用する DB2 サーバーの名前に置き換えます（たとえば、"10.10.1.248"、"server7" など）。
3. デフォルト・ポートは 50000 です。必要に応じて、これを変更します。
4. NAME を、サーバー上のデータベースに命名した名前に置き換えます（たとえば、"sspu" など）。
5. USER および PASSWORD を、データベースへのアクセスに使用するユーザー名およびパスワードに置き換えます。

次に例を示します。

---

```
<database type="db2">
<driver jdbcURL="jdbc:db2://server7:50000/sspu"
driver="com.ibm.db2.jcc.DB2Driver"/>
<user username="administrator" password="administrator"/>
</database>
```

---

6. ファイルを保存して閉じます。
7. `cns.db2.bat` ファイルを実行して、Connection Server を起動します。

**注意：**デフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードは、administrator / administrator です。

**MS SQL Server への接続**

1. テキストのみエディタを使用して、使用する Publishing Utility がインストールされているディレクトリにある `cns.sqlserver.config` ファイルを開きます。これは、SQL Server の構成ファイルのサンプルです（次を参照）。

---

```
<database type="mssql">
<driver jdbcURL="jdbc:microsoft:sqlserver://SERVER:1433;
DatabaseName=NAME; SelectMethod=cursor"
driver="com.microsoft.jdbc.sqlserver.SQLServerDriver"/>
<user username="USER" password="PASSWORD"/>
```

---

2. SERVER を、使用する SQL Server の名前に置き換えます（たとえば、"10.10.1.248"、"server7" など）。
3. デフォルト・ポートは 1433 です。必要に応じて、これを変更します。
4. NAME を、サーバー上のデータベースに命名した名前に置き換えます（たとえば、"sspu" など）。

接続ストリングの「DatabaseName」プロパティの使用方法に関する詳細は、Microsoft (SQL Server) の JDBC ドライバのドキュメントを参照してください。

5. 「SelectMethod」プロパティでは、"cursor" 選択メソッドを使用します。

6. ドライバのパスを追加します。

次に例を示します。

```
com.microsoft.jdbc.sqlserver.SQLServerDriver
```

7. USER および PASSWORD を、データベースへのアクセスに使用するユーザー名およびパスワードに置き換えます。

次に例を示します。

---

```
<database type="mssql">
<driver jdbcURL=jdbc:microsoft:sqlserver://server7:1433;
DatabaseName=sspu; SelectMethod=cursor"
driver="com.microsoft.jdbc.sqlserver.SQLServerDriver"/>
<user username="administrator" password="administrator"/>
</database>
```

---

8. `cns.sqlserver.bat` ファイルを実行して、サーバーを起動します。

**注意:** デフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードは、`administrator / administrator` です。

## Windows サービスとしてのインストール

Windows 上のサービスとして Publishing Utility をインストールすることができます。これにより、ユーザーのログアウト後も Publishing Utility の実行が継続され、承認されていないユーザーが Publishing Utility の操作を改ざんすることを防止できます。

### Windows サービスとしてのインストール

1. 管理者権限でマシンにログインしていることを確認します。
2. テキストのみエディタを使用して、使用する Publishing Utility の `¥conf¥` サブディレクトリにある `cns.wrapper.config` ファイルを開きます。
3. 構成ファイルを編集します (`cns.wrapper.config` で指定した正しい Publishing Utility 構成ファイルであることを確認してください)。

- MS SqlServer の場合 (デフォルト)

```
wrapper.app.parameter.1=cns.sqlserver.config
```

- Oracle の場合

```
wrapper.app.parameter.1=cns.oracle.config
```

- DB2 の場合

```
wrapper.app.parameter.1=cns.db2.config
```

4. 「コマンド・プロンプト」ウィンドウを開きます。
  - 「スタート」メニューで、「実行」をクリックします。
  - 「実行」ダイアログ・ボックスに「`cmd`」と入力します。
  - 「OK」をクリックして「コマンド・プロンプト」ウィンドウを開きます。
5. Publishing Utility がインストールされているディレクトリを変更します。
6. 「`cns.service-install.bat`」と入力します。

この手順によりサービスがインストールされますが、サービスは起動されません。「コントロール・パネル・サービス」アプレットから、または再起動によって、サービスを起動します。

**注意:** サービスを削除する場合、Publishing Utility インストール・ディレクトリと同一のディレクトリから、次をコマンドラインに入力します。

```
cns.service-uninstall.bat
```

## Subscription Client のインストール

Subscription Client は、Publishing Utility のクライアント・サイドのコンポーネントです。一般に、Subscription Client は Web サーバーをホストするすべてのマシン上にインストールします (FTP サーバーの使用を選択しない場合)。これは公開の宛先です。

**注意:** Subscription Client は、Connection Server および Site Studio Publishing Utility 両方に対するクライアント・サイドのコンポーネントとして使用されます。

### Subscription Client のインストール

1. DVD を挿入または配布 ZIP ファイルを解凍します。
2. 使用する Subscription Client の ¥win32¥ サブディレクトリに移動し、**Setup.exe** を起動します (UNIX の場合、/unix/install.sh 実行可能ファイルを実行します)。
3. InstallShield Wizard が表示されたら、「**Next**」をクリックします。
4. 「**Yes**」をクリックして、ライセンス契約に同意します。
5. 新規にインストールする場合、「**Install a new Subscription Client**」オプションを選択します (「Update」および「Remove」オプションの選択も可能です)。
6. 「**Next**」をクリックします。
7. デフォルトのディレクトリを受け入れる (推奨) か、宛先フォルダを入力します。
8. 「**Next**」をクリックします。
9. Java 仮想マシン (たとえば、j2sdk1.4.2) のパスを入力します。詳細は、1-2 ページの「[Java 仮想マシン \(JVM\)](#)」を参照してください。
10. 「**Next**」をクリックします。
11. ファイルをコピーする前に、設定を確認します。
12. 「**Next**」をクリックします。
13. 「**Finish**」をクリックします。

## Publishing Utility の構成

次の手順を実行して Publishing Utility を構成し、インストールされた Subscription Client と通信できるようにします。一般に、インストールした各 Subscription Client に対して新規の公開宛先を作成します。

### Publishing Utility の構成

1. 使用する構成の起動ファイルを実行して、Publishing Utility を起動します。

Windows 用のこれらのバッチ・ファイルおよび UNIX のシェル・スクリプトは、Publishing Utility がインストールされているディレクトリにあります。

  - SQL Server を使用した Windows: **cns.sqlserver.bat**
  - Oracle を使用した Windows: **cns.oracle.bat**
  - DB2 を使用した Windows: **cns.db2.bat**
  - SQL Server を使用した UNIX: **cns.sqlserver.sh**
  - Oracle を使用した UNIX: **cns.oracle.sh**
  - DB2 を使用した UNIX: **cns.db2.sh**
2. 管理者としてログインします (デフォルトのユーザー名およびパスワードは、administrator / administrator です)。
3. 管理者インタフェースで、「**Destinations**」をクリックします。
4. 「**Create New Destination**」をクリックします。

5. 「Destination Details」セクションに、宛先名（たとえば、"Server7" など）を指定し、「Description」フィールドに正しい情報を入力します。
6. 「Destination Type」で「Subscription Client」オプションを有効化します。
7. このサブスクリプションに対する宛先ログインおよびパスワードを入力します。
8. 「Subscription Client Details」セクションに宛先送信 URL を入力します。これは Subscription Client インスタンスのアドレスです（たとえば、<http://server7:8886> など）。
9. 「Save」をクリックします。

**注意：** Site Studio の Web サイトの公開に関する詳細は、『Site Studio Publishing Utility Administration Guide』（PDF）を参照するか、オンライン・ヘルプの Publishing Utility の管理インタフェースで「Help」をクリックしてください。

## Subscription Client の構成

次の手順を実行して Subscription Client を構成し、Publishing Utility と通信できるようにします。

### Subscription Client の構成

1. 使用する構成の起動ファイルを実行して、Subscription Client を起動します。
  - バッチ・ファイル sub\_agent.bat（Windows 用）およびシェル・スクリプト sub\_agent.sh（UNIX 用）は、Subscription Client がインストールされているディレクトリにあります。
2. Subscription Client の管理インタフェース（たとえば、<http://localhost:8887> など）にアクセスし、管理者としてログインします（デフォルトのユーザー名およびパスワードは、administrator / administrator です）。
3. Subscription Client の管理インタフェースで、「Content Providers」をクリックします。
4. 「Add Content Provider」をクリックします。
5. 次の値を入力します。
  - **Connection Server URL:** Publishing Utility インスタンスの URL（たとえば、<http://mainserver>）。

**注意：** Subscription Client は、Connection Server および Site Studio Publishing Utility 両方に対するクライアント・サイドのコンポーネントとして使用されます。

  - **Subscription Client UUID:** UUID は Publishing Utility 管理インタフェースで「Destinations」をクリックすると表示されます。
  - **Connection Server Password:** Publishing Utility パスワードを入力します。このパスワードは、Publishing Utility 管理インタフェースで「Destinations」をクリックし、宛先名（たとえば、"Server7" など）をクリックすると表示されます。
  - **Local Directory:** 配信されるコンテンツを保存するディレクトリを入力（または場所を参照）します。
6. 「Save」をクリックします。

**注意：** Site Studio の Web サイトの公開に関する詳細は、『Site Studio Publishing Utility Administration Guide』（PDF）を参照するか、オンライン・ヘルプの Publishing Utility の管理インタフェースで「Help」をクリックしてください。

## Publishing Utility および Subscription Client のアンインストール

Publishing Utility または Subscription Client が必要ではなくなった場合、次の手順を実行するとこれらをアンインストールできます。

### Publishing Utility のアンインストール

1. Site Studio Publishing Utility の DVD を挿入します。
2. Publishing Utility の ¥win32 サブディレクトリに移動します。
3. 「Setup.exe」をダブルクリックします。  
**注意**：UNIX の場合、/unix/install.sh 実行可能ファイルを実行します。
4. 「Remove Site Studio Publishing Utility」を選択します。
5. スクリーンに表示される手順を実行し、Publishing Utility をアンインストールします。

### Subscription Client のアンインストール

1. Site Studio Publishing Utility の DVD を挿入します。
2. Subscription Client の ¥win32 サブディレクトリに移動します。
3. 「Setup.exe」をダブルクリックします。  
**注意**：UNIX の場合、/unix/install.sh 実行可能ファイルを実行します。
4. 「Remove Subscription Client」を選択します。
5. スクリーンに表示される手順を実行し、Subscription Client をアンインストールします。



---

## Subscription Client の管理

Subscription Client は、Publishing Utility のクライアント・サイドのコンポーネントです。一般に、Subscription Client は Web サーバーをホストするすべてのマシン上にインストールします (FTP サーバーの使用を選択しない場合)。Subscription Client は、Connection Server および Site Studio Publishing Utility 両方に対するクライアント・サイドのコンポーネントとして使用されます。

この項の内容は次のとおりです。

- [Subscription Client の管理インターフェース](#)
- [Subscription Client の一般設定](#)
- [Subscription Client 構成ファイル](#)

## Subscription Client の管理インタフェース

使用する構成の起動ファイルを実行して、Subscription Client を起動します。バッチ・ファイル `sub_agent.bat` (Windows 用) およびシェル・スクリプト `sub_agent.sh` (UNIX 用) は、Subscription Client がインストールされているディレクトリにあります。

Subscription Client の管理インタフェース (たとえば、`http://localhost:8887` など) にアクセスし、管理者としてログインします (デフォルトのユーザー名およびパスワードは、`administrator / administrator` です)。

### ブラウザの表示の制御

**重要:** 構成ファイルに加えた編集を有効にするには、ソフトウェアを停止する必要があります。ソフトウェアの実行中に編集すると、次に停止した際にファイルに対する変更が上書きされることを告げる警告ダイアログが表示されます。

「Status」ウィンドウまたは Subscription Client の管理インタフェースを起動時に表示させるかどうか、管理インタフェースの「Settings」ページの「Startup Options」を変更または Subscription Client の構成ファイル (`siclone.config`) の次の `<options>` 要素を変更して制御できます。

- **run-interactive:** 起動時に「Status」ウィンドウが表示されるようにするには `true`、表示されないようにするには `false` に設定します。
- **start-browser:** 起動時に管理インタフェースが表示されるようにするには `true`、表示されないようにするには `false` に設定します。

例:

```
<options run-interactive="true" start-browser="true">
```

### Subscription Client の停止

Subscription Client を停止する際、完全に停止する、または停止した直後に再起動できます。管理インタフェースおよび「Status」ウィンドウを使用している場合、常に、Subscription Client のナビゲーション・バーの「Shutdown」オプションで Subscription Client を閉じます。

## Subscription Client の一般設定

次の設定が、使用する Subscription Client を識別し、操作プロパティを決定します。

- **Identify:** Subscription Client の管理インタフェースにセキュリティを提供します。管理者ではないユーザーが重要な設定を変更できないようにするには、識別名およびパスワードを指定します。識別名およびパスワードは、大 / 小文字を区別します。
- **Proxy Server:** インターネット・アクセスに対するリクエストを受信するネットワークの中間サーバー。サイトでプロキシ・サーバーを使用している場合、Subscription Client でも使用するよう設定します。使用する環境のプロキシ・サーバーに関する情報は、サイトのネットワーク管理者に訊ねてください。

プロキシ・サーバーに IP アドレスおよびポート番号を指定します。使用するプロキシ・サーバーがセキュリティな場合、プロキシが SSL 認証をリスニングするポート番号を指定します。

- **Log Settings:** Subscription Client の実行中、`subscriber.log` という名前のログ・ファイルが自動的に生成されます。

デフォルトでは、Subscription Client は、ローテーション・メソッドを使用してログ・ファイルを管理します。現行のログ・ファイルが最大構成サイズに達すると、追加のログ・ファイルが作成されます。Subscription Client は、構成された数のログ・ファイルを生成するまで、一定のサイズのログ・ファイルを継続して生成します。ファイルが指定された数に達すると、Subscription Client は新しいログ・ファイルを作成するときに最も古いログ・ファイルを削除します。したがって、常に、最新のログイン情報が維持されます。ローテーション・スキームを使用すると、ログ・メッセージの格納のために使用されるディスク領域を制御できます。

subscriber.log のファイル・サイズは 1024MB（許可される最大サイズ）です。ローテーションするファイルのデフォルト数は 7 です。最大数は 100 です。

- **Startup Options:** 起動時に表示される Subscription Client のコンポーネントを決定します。Subscription Client の Windows バージョンを使用している場合、ブラウザ・ベースの「Subscription Client Administrator」および「Subscription Client Status」ウィンドウの両方が起動時に表示されます。UNIX ベース・バージョンの Subscription Client を使用している場合、いずれの要素も起動時に表示されません。
- **Auto Upgrade:** Subscription Client アプリケーションを最新のソフトウェア・リリースに更新します。このオプションが有効な場合、リリースされたアプリケーションの更新が自動的に Subscription Client に適用されます。Subscription Client はしばらく停止して更新を適用し、最小限の停止時間の後、再起動します。デフォルトでは、自動更新は有効化されています。

## Subscription Client 構成ファイル

Subscription Client の構成ファイル (siclone.config) のエントリは、ソフトウェアの操作を制御します。構成ファイルには、Subscription Client の拡張およびカスタマイズに関連するエントリも格納されています。

構成ファイルには、siclone、options、log、proxy、ssl、extensions および extension の要素が含まれます。

### siclone 要素

siclone 要素は構成ファイルのルート要素で、ファイル内の開始文および終了文です。siclone 要素には Subscription Client のグローバル操作の一連の設定が含まれ、options (1)、defaults (1)、extensions (1) および job (none を含むいずれかの数) の子要素があります。次の属性があります。

属性	用途	デフォルト
last-run-product-code	構成ファイルを作成したコンポーネントの名前	subscriber
last-run-version	PC で最後に実行された Subscription Client のリリース・レベル	none
last-run-os	Subscription Client が最後に実行された PC のオペレーティング・システム	none

## options 要素

options 要素には Subscription Client のグローバル設定が含まれ、log (1)、proxy (1) および ssl (1) の子要素があります。次のベース属性があります。

属性	用途	値およびデフォルト
run-interactive	「Status」ウィンドウの起動時の表示を制御します。	<b>true:</b> 起動時に「Status」ウィンドウを表示します。 <b>false:</b> 起動時に「Status」ウィンドウを表示しません。 デフォルト: true
start-browser	起動時に Web ブラウザの起動を制御します (「Subscription Client」メイン・メニューが表示されます)。	<b>true:</b> 「Subscription Client」メイン・メニュー・ページで Web ブラウザの起動を有効にします。 <b>false:</b> Web ブラウザの起動を無効にします。 デフォルト: true
browser-path	Subscription Client で使用する Web ブラウザに対する完全な修飾名です。この設定はデフォルトの Web ブラウザの自動検知を上書きします。 C:\Program Files\Netscape Communicator\netscape.exe または /usr/local/bin/netscape	デフォルト: none
max-retries	ダウンロードが失敗した場合に再試行する最大回数。	デフォルト: 3
ui-port	HTML 管理インタフェースに対して監視されるポート。	有効なポート番号。 デフォルト: 8887
admin-username	管理モジュールの認証を渡すために必要な名前。	デフォルト: administrator
admin-password	前述の admin-username に対するパスワード。管理モジュールの認証を渡すために使用されます。BASE64 エンコードです。	デフォルト: administrator
push-port	Subscription Client が、SSL を使用しない送信モードのメッセージをリスニングするポート。	有効なポート番号。 デフォルト: 8886
push-ssl-port	Subscription Client が、SSL を使用した送信モードのメッセージをリスニングするポート。	有効なポート番号。 デフォルト: 8885
download-timeout	タイムアウトする前にダウンロードの開始を Subscription Client が待機する時間をミリ秒で指定します。	デフォルト: 300000
max-retries	ファイルのダウンロードを Subscription Client が試行する最大回数を指定します。	デフォルト: 3
min-requestor-check	リクエストがメッセージをチェックする時間をミリ秒で指定します。	デフォルト: 30000

## log 要素

log 要素は、Subscription Client のロギングに関する情報を含みます。log 要素には子要素がありません。次の属性があります。

属性	用途	値およびデフォルト
<b>filesize</b>	ログ・ファイルの KB 単位の最大サイズ。	デフォルト: 1024 (許可される最大サイズ)
<b>numfiles</b>	ローテーションを作成するログ・ファイルの最大回数。	デフォルト: 7 (最大 100 まで)
<b>filepath</b>	デフォルトのログ・ファイルの完全な修飾名。ファイル名のみを指定すると、Subscription Client がインストールされたディレクトリに書き込まれます。	デフォルト: subscriber.log
<b>default</b>	ログ・メッセージのデフォルトの優先レベル。	優先レベルは次のとおりです (重大度が高い順序)。 <b>critical:</b> 重大なエラーまたはクラッシュ。 <b>error:</b> 操作の失敗。 <b>warning:</b> 通常の状態。 <b>verbose:</b> 詳細な進捗メッセージ。 <b>info:</b> 情報メッセージ。 <b>debug:</b> プログラムのみが使用します。すべてのレベルを含みます。 デフォルト: error
<b>logtofile</b>	ログ情報を書き込む場所を指定します。	<b>true:</b> ログ・ファイルに出力します。 <b>false:</b> コンソールに出力します。 デフォルト: true
<b>overwrite</b>	ログ・ファイルがローテーションで上書きされるかどうかを指定します。	<b>true:</b> ローテーションで定義されたようにログ・ファイルを上書きします (numfiles 属性を参照)。 <b>false:</b> 単一のログ・ファイルを使用します (ローテーションなし)。 デフォルト: true

## 機能別のロギング

Subscription Client の様々なコンポーネントの機能からロギングされたイベントに対する重大度のレベルを設定できます。重大度のレベルが高いほど、生成されるログ・メッセージは少なくなります。

いずれのレベルでも、より高いレベルのすべてのログ・メッセージが同時に生成されます。たとえば、ロギング・レベルが **error** に設定されている場合、**critical** レベルのメッセージも生成されます。

次にログ要素の例を示します。

---

```
<options>
<log default="warning" ice="verbose" replicator="debug"/>
</options>
```

---

この例ではデフォルトのロギング・レベルが **warning** に設定されていて、重大度の低いメッセージは抑止され、重大度がより高いメッセージが戻されます。ICE 機能からのメッセージは **verbose** レベルに設定され、デバッグ情報を含むすべてのイベントは **replicator** 機能にロギングされます。

**注意：**特に指示がないかぎり、**debug** ロギング・レベルを使用しないでください。

イベント・ロギングを指定できる機能は次のとおりです。

- **analyzer:** コンテンツ・プロバイダ情報の分析に関連する Web サーバーからのメッセージ。
- **filter:** コンテンツ・フィルタリングにより生成されたメッセージ。
- **httpd:** メッセージの接続およびネットワーク。
- **ice:** ICE サーバー（交換された ICE リクエスト）。
- **replicator:** Web ページをローカル・ディレクトリにコピーするコンポーネント。
- **scheduler:** コンテンツの配布の回数を記録します。
- **SKITL:** Kinecta Transformation Language により生成されたメッセージ。
- **XMLParser:** XML 処理メッセージ。

## proxy 要素

proxy 要素は、プロキシ・サーバーがサイトにある場合、プロキシ・サーバーの使用に関する情報を含みます。proxy 要素には子要素がありません。次の属性があります。

属性	用途	値およびデフォルト
proxysset	プロキシ・サーバー設定を定義するかどうか指定します。	<b>true:</b> プロキシ・サーバー設定が定義されます。 <b>false:</b> プロキシ・サーバー設定が定義されません。 デフォルト: false
host	プロキシ・サーバーの IP アドレスまたはホスト名。	プロキシ・サーバーの有効な IP アドレスまたはホスト名。
port	プロキシ・サーバーのポート番号。	デフォルト: NULL(-1)
ssl-port	Secure Sockets Layer (SSL) セキュリティが有効化されたプロキシ・サーバー・ポートのポート番号。	有効なポート番号。 デフォルト: NULL(-1)
username	認証を実行するプロキシ・サーバーにログインするためのユーザー ID。	セキュアなプロキシ・サーバーの有効なユーザー ID。
password	proxyUsername に関連付けられたパスワード。プレーン・テキストまたは BASE64 エンコードです。BASE64 エンコードのパスワード仕様の最初の文字として、@ を使用します。	セキュアなプロキシ・サーバーの有効なパスワード。

## ssl 要素

ssl 要素は、Secure Sockets Layer の使用に関する情報を含みます。ssl 要素には子要素がありません。次の属性があります。

属性	用途	値およびデフォルト
有効	SSL セキュリティを Publishing Utility で使用するかどうか指定します。この属性を "true" に設定して、SSL を有効化します。	<b>true:</b> Publishing Utility で SSL セキュリティを使用して、管理ユーザー・インタフェースおよび ICE サーバーに接続します。 <b>false:</b> Publishing Utility で SSL ではないポートのみを使用できます。 デフォルト: false
required	SSL セキュリティのみを使用し、その他のプロトコルを使用できないようにするかどうか指定します。	<b>true:</b> SSL のみを使用できます。SSL ではない接続はサポートされません。 <b>false:</b> SSL および SSL ではない接続の両方がサポートされます。 デフォルト: false
Admin	管理ユーザー・インタフェースを ssl で有効にするかどうか指定します。この属性を "True" に設定して、この web ベースのインタフェースを有効化します。	<b>True:</b> 管理ユーザー・インタフェースが有効化されます。 <b>False:</b> 管理ユーザー・インタフェースが有効化されません。 デフォルト: False

属性	用途	値およびデフォルト
<b>keystorefilename</b>	SSL 証明書のファイル名。	<b>yourfilename:</b> 実際の証明書のファイル名を指定します。
<b>keystorepass</b>	SSL キーストア・パスワード。	<b>yourpassword:</b> 実際のパスワードを指定します。

Site Studio Publishing Utility では、Secure Socket Layer (SSL) 証明書を提供しません。SSL 証明書を作成し、構成ファイルを編集して SSL を有効化する必要があります。使用するインスタンスの構成ファイルは、"cns.sqlserver.config"、"cns.oracle.config" または "cns.db2.config" です (使用するデータベースにより異なります)。ssl 要素の例を次に示します。

```
<ssl enable="true" required="false" admin="true"
  keystorefilename="yourfilename" keystorepass="yourpassword"/>
```

## extensions 要素

extensions 要素には、Subscription Client に追加の機能を実装する拡張エントリのセットが含まれます。extensions 要素には、単一の子要素、extension があります (これは、none を含むいずれかの数を取ります)。

## extension 要素

extension 要素は、"com.kinecta.subscriber.Extension" を実装するクラスを指定します。extension 要素には子要素がありません。次の属性があります。

属性	用途	値
<b>class</b>	拡張に対して起動される Java クラス名	この拡張に対する有効な Java クラス名
<b>param</b>	起動時に Java クラスに渡される情報	拡張に渡すいずれかの文字列



---

---

# サード・パーティ・ライセンス

## 概要

この付録では、この製品に含まれるすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスを示します。

- [Apache Software License](#) (A-2 ページ)
- [W3C® Software Notice and License](#) (A-2 ページ)
- [Zlib License](#) (A-3 ページ)
- [General BSD License](#) (A-3 ページ)
- [General MIT License](#) (A-4 ページ)
- [Unicode License](#) (A-4 ページ)
- [その他の帰属](#) (A-5 ページ)

## Apache Software License

- \* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
- \* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
- \* you may not use this file except in compliance with the License.
- \* You may obtain a copy of the License at
- \* <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
- \*
- \* Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
- \* distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
- \* WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
- \* See the License for the specific language governing permissions and
- \* limitations under the License.

## W3C® Software Notice and License

- \* Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
- \* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
- \* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
- \* All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
- \*
- \* This W3C work (including software, documents, or other related items) is
- \* being provided by the copyright holders under the following license.By
- \* obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
- \* you have read, understood, and will comply with the following terms and
- \* conditions:
- \*
- \* Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
- \* documentation, with or without modification, for any purpose and without
- \* fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
- \* on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
- \* including modifications, that you make:
- \*
- \* 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
- \* redistributed or derivative work.
- \*
- \* 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or terms
- \* and conditions.If none exist, a short notice of the following form
- \* (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within the
- \* body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
- \* [date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts
- \* Institute of Technology, Institut National de Recherche en
- \* Informatique et en Automatique, Keio University).All Rights
- \* Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"
- \*
- \* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including the
- \* date changes were made.(We recommend you provide URIs to the location
- \* from which the code is derived.)
- \*
- \* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT HOLDERS
- \* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT
- \* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR
- \* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE
- \* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.
- \*
- \* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR
- \* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR
- \* DOCUMENTATION.
- \*
- \* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in advertising
- \* or publicity pertaining to the software without specific, written prior
- \* permission.Title to copyright in this software and any associated
- \* documentation will at all times remain with copyright holders.
- \*

## Zlib License

\* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library  
version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

## General BSD License

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## General MIT License

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology  
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

## Unicode License

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories

<http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and

<http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>,

<http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

## その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.  
FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.  
HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.  
IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.  
Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.  
Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.  
Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.  
Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.  
Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.  
MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.  
Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.  
Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.  
Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.  
Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.  
Portions Copyright © 1997 Soft Horizons. All rights reserved.  
Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.  
Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.  
Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.  
Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.  
UNIX is a registered trademark of The Open Group.  
Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc



---

---

# 索引

## A

---

admin, 3-7  
admin-password 属性, 3-4  
admin-username 属性, 3-4

## B

---

browser-path 属性, 3-4

## C

---

class 属性, 3-8

## D

---

default 属性, 3-5  
download-timeout 属性, 3-4

## E

---

extensions 要素, 3-8  
extension 要素, 3-8  
    class 属性, 3-8  
    param 属性, 3-8

## F

---

filepath 属性, 3-5  
filesize 属性, 3-5

## H

---

host 属性, 3-7

## J

---

Java 仮想マシン, 1-2

## K

---

keystorefilename, 3-8  
keystorepass, 3-8

## L

---

last-run-os 属性, 3-3  
last-run-product-code 属性, 3-3

last-run-version 属性, 3-3  
logtofile 属性, 3-5  
log 要素  
    default 属性, 3-5  
    filepath 属性, 3-5  
    filesize 属性, 3-5  
    logtofile 属性, 3-5  
    numfiles 属性, 3-5  
    overwrite 属性, 3-5

## M

---

max-retries 属性, 3-4  
Microsoft SQL, 2-2  
min-requestor-check 属性, 3-4

## N

---

numfiles 属性, 3-5

## O

---

options 要素, 3-4  
    admin-password 属性, 3-4  
    admin-username 属性, 3-4  
    browser-path 属性, 3-4  
    download-timeout 属性, 3-4  
    max-retries 属性, 3-4  
    min-requestor-check, 3-4  
    push-port 属性, 3-4  
    push-ssl-port 属性, 3-4  
    run-interactive 属性, 3-4  
    start-browser 属性, 3-4  
    ui-port 属性, 3-4  
Oracle データベース, 2-2  
overwrite 属性, 3-5

## P

---

param 属性, 3-8  
password 属性, 3-7  
port 属性, 3-7  
proxysset 属性, 3-7  
proxy 要素  
    host 属性, 3-7  
    password 属性, 3-7  
    port 属性, 3-7  
    proxysset 属性, 3-7

ssl-port 属性, 3-7  
username 属性, 3-7  
Publishing Utility  
Windows サービスとしてインストール, 2-5  
アンインストール, 2-8  
最大ヒープ・サイズ, 1-2  
システム要件, 2-1  
データベースの構成, 2-2  
データベースへの接続, 2-3  
ファイアウォール, 1-3  
push-port 属性, 3-4  
push-ssl-port 属性, 3-4

## R

---

required, 3-7  
run-interactive 属性, 3-4

## S

---

siclone.config, 3-3  
siclone 要素, 3-3  
last-run-os 属性, 3-3  
last-run-product-code 属性, 3-3  
last-run-version 属性, 3-3  
ssl-port 属性, 3-7  
ssl 要素  
admin, 3-7  
keystorefilename, 3-8  
keystorepass, 3-8  
required, 3-7  
有効化, 3-7  
start-browser 属性, 3-4  
Subscription Client, 2-1, 2-6, 3-1  
アンインストール, 2-8  
一般設定, 3-2  
インストール, 2-6  
起動オプション, 3-2  
機能別のロギング, 3-6  
構成ファイル, 3-3  
最大ヒープ・サイズ, 1-2  
識別, 3-2  
自動更新, 3-2  
停止, 3-2  
ファイアウォール, 1-3  
ブラウザの表示の制御, 3-2  
プロキシ・サーバー, 3-2  
ログ設定, 3-2  
Subscription Client の一般設定  
起動オプション, 3-3  
識別, 3-2  
自動更新, 3-3  
プロキシ・サーバー, 3-2  
ログ設定, 3-2

## U

---

ui-port 属性, 3-4  
username 属性, 3-7

## W

---

Windows サービス, Publishing Utility のインストール, 2-5

## い

---

インストレーション・ガイドの表記規則, 1-4

## き

---

起動オプション設定, 3-3

## こ

---

構成ファイル, 3-3  
extensions 要素, 3-8  
extension 要素, 3-8  
log 要素, 3-5  
options 要素, 3-4  
proxy 要素, 3-7  
siclone 要素, 3-3  
ssl 要素, 3-7

## さ

---

最大ヒープ・サイズ  
Publishing Utility の設定, 1-2  
Subscription Client の設定, 1-2

## し

---

識別設定, 3-2  
自動更新設定, 3-3

## と

---

ドキュメント, 1-4

## ふ

---

プロキシ・サーバー設定, 3-2

## ほ

---

ポート番号, デフォルト, 1-3

## ゆ

---

有効化, 3-7

## よ

---

要素  
extension, 3-8  
extensions, 3-8  
log, 3-5  
options, 3-4  
proxy, 3-7  
siclone, 3-3  
ssl, 3-7



## ろ

---

ロギング

機能別, 3-6

デフォルト・レベル, 3-6

ログ設定, 3-2

